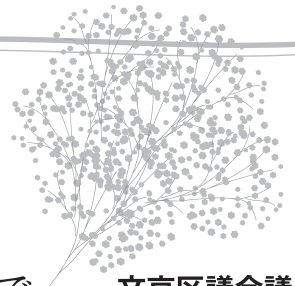




かすみ便り



母の実感、教師の経験、街かどの目線で
あなたの毎日と区政をつなぎます。

文京区議会議員
田中かすみ通信
Vol.21 2019年2月



田中かすみ 区議会議員

対談

竹谷とし子 参議院議員



食は日本の未来だから 今、食品ロス削減に全力。

一人は共に北海道出身、大学でも同級生。
「食品ロス」への取り組みについて語り合います。

竹谷 日本ではまだ食べられるのに捨てられている「食品ロス」が、年間600万トン以上発生しています。これは東京都民が一年間に食べる量とほぼ同じです。生産、製造、流通、販売そして消費・家庭の各段階で日常的に発生しています。また世界で生産される食料の3分の1が様々な原因で廃棄されており、国連の「持続可能な開発のため

田中 驚きです。

竹谷 食品ロスは、事業者にとっては損失、家計の負担増、自治体のゴミ処理費用増、焼却すると環境負荷になり、さらに労働力やエネルギー、水のムダにも直結します。子どもたちの明日に大きく関わる問題です。そこで公明党が要(かなめ)となり、昨年末、超党派の議員連盟が発

の2030目標(SDGs)に位置づけられるなど世界的な課題でもあります。

田中 足し、食品ロスを削減し、さらにフードバンクなどを通じて福祉的に活用するための法案の早期成立を目指しています。

田中 大変な量です。しかも私たちの家庭から出る食品ロスも多いんですね。

田中 文京区でも未利用・未開封のまま廃棄された食品が年間約830トン捨てられたと推計され、処理に約4800万円が使われたことになりました(平成26年度)。その削減に真剣に取り組んでいます。さらに文京区では、家庭で余った食品を持ち寄り、福祉団体や施設に寄附す

竹谷 食品ロスの約半分は家庭から出ています。買い過ぎ、期限切れ、食べ残しなどにより一人当たり毎日お茶碗一杯分、年間で約50キログラム捨てられている計算です。

田中 子どもの食育の機会にもなりますね。食品ロスは世界・日本が抱える大きな問題。と同時に、私たち一人ひとりが取り組める身近な問題です。子どもたちに確かな未来を手渡すために、ビジョンを示し着実に推進していく。公明党の、地域と国のネットワークで実現していきます。

る「フードドライブ」も実施しています。全国で初めてスタートした「子ども宅食」も、食品ロス削減に貢献する取り組みです。

竹谷 全国が注目する政策です。家庭でも、たとえば買い物前に冷蔵庫をチェックするなど、すぐに取り組めることがありますね。賞味期限と消費期限の違いも、ぜひ知っていただきたいですね。



©KOMIITO

田中かすみ 〒113-0023 文京区向丘 2-10-20

電話 03-3814-3120 ホームページ : <http://www.tanakakasumi.com>

